



# Cisco EPNM コマンドラインインターフェイスの概要

---

この章では、Cisco Evolved Programmable Network Manager (EPNM) のコマンドラインインターフェイス (CLI) へのアクセス方法、さまざまなコマンドモード、および各モードで利用できるコマンドの概要を説明します。

Cisco EPNM は、Web インターフェイスを通して設定および監視できます。また、CLI を使用して、このマニュアルに記載されている設定および監視タスクを実行することもできます。

- [Cisco EPNM コマンド環境へのアクセス \(2 ページ\)](#)
- [Cisco EPNM CLI のユーザーアカウントおよびモード \(3 ページ\)](#)
- [Cisco EPNM CLI のコマンドモード \(4 ページ\)](#)

## Cisco EPNM コマンド環境へのアクセス

Cisco EPNM CLI へは、次のいずれかのマシンを使用して、セキュアシェル (SSH) クライアントまたはコンソールポート経由でアクセスできます。

- Windows 7、8、10 が稼働する Windows PC
- Mac OS X 10.4 以降の Apple コンピュータ
- Linux の PC

# Cisco EPNM CLI のユーザーアカウントおよびモード

Cisco EPNM CLI では、次のタイプのアカウントを使用できます。

- Admin (管理者)
- ネットワーク管理者
- セキュリティ管理者
- ユーザー

Cisco EPNM の初回電源投入時に、セットアップユーティリティを実行してアプライアンスを設定するように求められます。このセットアッププロセスで、管理者用のユーザアカウントである Admin アカウントが作成されます。初期コンフィギュレーション情報を入力すると、アプライアンスは自動的に再起動し、Admin アカウントで指定したユーザ名とパスワードの入力が求められます。また、Cisco EPNM CLI に最初にログインするときにも、この Admin アカウントを使用する必要があります。

管理者は (Cisco EPNM サーバーに対する権限とアクセスが制限された) ユーザーアカウントを作成して管理できます。Admin アカウントは、Cisco EPNM CLI を使用するために必要な機能も提供します。

Cisco EPNM CLI に SSH アクセスが可能なユーザー (管理者権限、セキュリティ管理者権限、ネットワーク管理者権限、ユーザー権限を保有) を作成するには、コンフィギュレーションモードで **username** コマンドを入力する必要があります (「[Cisco EPNM CLI のコマンドモード](#)」を参照)。



- (注) インストールが完了すると、管理者ロールを持つユーザーは、ユーザー管理者ロールのみに割り当てることができ、上記の他のユーザーロールタイプには割り当てることができません。

Cisco EPNM サーバーにログインすると、常にユーザー名とパスワードによる認証を必要とするユーザーモードまたは **admin** (EXEC) モードになります。

どのモードであるかは、プロンプトを確認して判断できます。サブモードに関係なく、ユーザーモードのプロンプトの末尾には、右山カッコ (>) が表示され、admin モードのプロンプトの末尾には、シャープ記号 (#) が表示されます。

# Cisco EPNM CLI のコマンドモード

この項では、Cisco EPNM でサポートされているコマンドモードについて説明します。

## EXEC コマンド

EXEC コマンドには、主に **show** や **reload** などのシステムレベルコマンド（アプリケーションのインストール、アプリケーションの起動と停止、ファイルとインストール環境のコピー、バックアップの復元、および情報の表示など）が含まれます。

- [表 1: EXEC コマンドの要約](#) に EXEC コマンドを示します。
- [表 2: show コマンドの要約](#) に EXEC モードの show コマンドを示します。

EXEC コマンドの詳細については、[コマンドモードについて](#)を参照してください。

## EXEC コマンドまたはシステムレベル コマンド

[表 1: EXEC コマンドの要約](#) に EXEC モードのコマンドを示します。

表 1: EXEC コマンドの要約

	説明
<b>application install</b>	特定のアプリケーションバンドルをインストールします。
<b>application start</b>	特定のアプリケーションを起動またはイネーブルにします。
<b>application stop</b>	特定のアプリケーションを停止またはディセーブルにします。
<b>application upgrade</b>	特定のアプリケーション バンドルをアップグレードします。
バックアップ	バックアップを実行して、そのバックアップをリポジトリに保存します。
<b>backup-logs</b>	Cisco EPNM に記録されているすべてのログをリモートの場所にバックアップします。
<b>banner</b>	CLI にログインする間のメッセージを設定します (pre-login)。
<b>change-password</b>	現在の CLI ユーザーのパスワードを変更します。

	説明
<b>clock</b>	Cisco EPNM サーバーのシステムクロックを設定します。
<b>configure</b>	設定モードを開始します。
<b>copy</b>	コピー元からコピー先に任意のファイルをコピーします。
<b>debug</b>	さまざまなコマンド状況（たとえば、バックアップと復元、コンフィギュレーション、コピー、リソースのロック、ファイル転送、ユーザ管理など）で、エラーまたはイベントを表示します。
<b>delete</b>	Cisco EPNM サーバーのファイルを削除します。
<b>dir</b>	Cisco EPNM サーバー上のファイルを一覧表示します。
<b>exit</b>	リモート システムとの暗号化されたセッションを切断します。現在のコマンドモードから以前のコマンドモードに戻ります。
<b>export</b>	CW 移行用のデータをエクスポートします。
<b>forceout</b>	特定の Cisco EPNM サーバーシステムユーザーのすべてのセッションを強制的にログアウトします。
<b>halt</b>	Cisco EPNM サーバーを無効にするか、シャットダウンします。
<b>lms</b>	LMS サーバーから EPNM サーバーにデータを移行します。
<b>mkdir</b>	新しいディレクトリを作成します。
<b>ncs</b>	サーバーの開始、停止、およびバックアップに使用される NCS 関連コマンド。
<b>nslookup</b>	リモートシステムの IPv4 アドレスまたはホスト名を照会します。
<b>ocsp</b>	OCSP レスポンダを使用して Web クライアントの証明書ベースの認証を有効にします。

	説明
<b>パッチ</b>	システムやアプリケーションのパッチをインストールします。
<b>ping</b>	リモートシステムへの IPv4 ネットワーク 接続を判別します。
<b>ping6</b>	リモートシステムへの IPv6 ネットワーク 接続を判別します。
<b>reload</b>	Cisco EPNM サーバーを再起動します。
<b>restore</b>	前回のバックアップを復元します。
<b>rmdir</b>	既存のディレクトリを削除します。
<b>rsakey</b>	設定されている RSA キーを表示するか、ユーザ認証のための新しい RSA 公開キーを設定します。
<b>sam</b>	SAM 最上位コマンド
<b>show</b>	Cisco EPNM サーバーに関する情報を表示します。
<b>ssh</b>	リモートシステムとの暗号化されたセッションを開始します。
<b>tech</b>	Cisco Technical Assistance Center (TAC) コマンドを提供します。
<b>telnet</b>	リモートシステムへの Telnet 接続を確立します。
<b>terminal length</b>	端末回線のパラメータを設定します。
<b>terminal session-timeout</b>	すべてのターミナルセッションに対して、無活動タイムアウトを設定します。
<b>terminal session-welcome</b>	すべてのターミナルセッションで表示される初期メッセージをシステムに設定します。
<b>terminal terminal-type</b>	現在のセッションの現在の回線に接続されている端末のタイプを指定します。
<b>traceroute</b>	リモート IP アドレスのルートをトレースします。

	説明
<b>undebug</b>	さまざまなコマンド状況（たとえば、バックアップと復元、コンフィギュレーション、コピー、リソースのロック、ファイル転送、ユーザー管理など）で、 <b>debug</b> コマンドの出力（エラーまたはイベントの表示）を無効にします。
<b>write</b>	強制的にセットアップユーティリティを実行してネットワークコンフィギュレーションをプロンプトするスタートアップコンフィギュレーションを消去し、実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーし、コンソールに実行コンフィギュレーションを表示します。

## show コマンド

**show** コマンドは、Cisco EPNM の設定を表示する際に使用できる最も便利なコマンドの 1 つです。表 [show コマンド \(7 ページ\)](#) では、**show** コマンドの要約を示します。**show** コマンドの後には、キーワード（例：**show application status**）を指定する必要があります。一部の **show** コマンドでは、キーワードの後に引数または変数（例：**show application version**）を指定する必要があります。

表 2: **show** コマンドの要約

	説明
<b>application</b> （キーワードが必要）	インストールされているアプリケーションに関する情報（ステータス情報やバージョン情報など）を表示します。
<b>backup</b> （キーワードが必要）	バックアップに関する情報を表示します。
<b>banner</b> （キーワードが必要）	CLI にログインするときのメッセージを設定します。
<b>cdp</b> （キーワードが必要）	イネーブルな Cisco Discovery Protocol (CDP) インターフェイスに関する情報を表示します。
<b>clock</b>	システムクロックの曜日、日付、時刻、時間帯、および年を表示します。
<b>cpu</b>	CPU 情報を表示します。
<b>disks</b>	ディスクのファイルシステム情報を表示します。

	説明
<b>icmp-status</b>	Internet Control Message Protocol (ICMP) のエコー応答コンフィギュレーション情報を表示します。
<b>interface</b>	Cisco EPNM で設定されているすべてのインターフェイスの統計情報を表示します。
インベントリ	ハードウェアインベントリについての情報 (Cisco EPNM アプライアンスモデルやシリアル番号など) を表示します。
<b>ip route</b>	アプリケーションの IP ルートの詳細を表示します。
<b>logging</b> (キーワードが必要)	Cisco EPNM サーバーのログギング情報を表示します。
<b>logins</b> (キーワードが必要)	Cisco EPNM サーバーのログイン履歴を表示します。
<b>memory</b>	実行中のすべてのプロセスによるメモリ使用量を表示します。
<b>netstat</b>	netstat およびファイアウォール情報を表示します。
<b>ntp</b>	ネットワーク タイム プロトコル (NTP) サーバのステータスを表示します。
<b>ports</b>	アクティブなポートを受信するすべてのプロセスを表示します。
<b>process</b>	Cisco EPNM サーバーのアクティブなプロセスに関する情報を表示します。
<b>repository</b> (キーワードが必要)	特定のリポジトリのファイルの内容を表示します。
<b>restore</b> (キーワードが必要)	Cisco EPNM の復元履歴を表示します。
<b>running-config</b>	Cisco EPNM の現在の実行コンフィギュレーションファイルの内容を表示します。
<b>security-status</b>	サービス/ポートが有効か無効かを表示します。
<b>startup-config</b>	Cisco EPNM のスタートアップ コンフィギュレーションの内容を表示します。



	説明
<b>tech-support</b>	問題を報告するときに、TAC に提供可能なシステム情報およびコンフィギュレーション情報を表示します。
<b>terminal</b>	現在の端末回線の端末コンフィギュレーションパラメータの設定に関する情報を表示します。
<b>timezone</b>	Cisco EPNM の現在のタイムゾーンを表示します。
<b>timezones</b>	Cisco EPNM で使用可能なすべてのタイムゾーンを表示します。
<b>udi</b>	Cisco EPNM 固有のデバイス ID (UDI) に関する情報を表示します。
<b>uptime</b>	ログインしているシステムが起動してからの稼働時間を表示します。
<b>users</b>	システム ユーザの情報を表示します。
<b>version</b>	現在ロードされているソフトウェアのバージョンに関する情報とともに、ハードウェアおよびデバイス情報を表示します。

## コンフィギュレーション コマンド

コンフィギュレーション コマンドには **interface** と **repository** が含まれます。コンフィギュレーション モードにアクセスするには、EXEC モードで **configure** コマンドを実行します。

一部のコンフィギュレーション コマンドでは、コンフィギュレーション を完了するために、コンフィギュレーション サブモードを開始する必要があります。

[表 3: コンフィギュレーション コマンドの要約](#) にコンフィギュレーション コマンドを示します。

表 3: コンフィギュレーション コマンドの要約

	説明
<b>aaa authentication</b>	EPNM サーバーにリモートでログインします。
<b>backup-staging-url</b>	バックアップおよび復元操作に、ネットワーク ファイル システム (NFS) の一時スペースまたはリモート ディレクトリのステージング領域を指定します。

	説明
<b>cdp holdtime</b>	受信デバイスがパケットを廃棄する前にサーバから Cisco Discovery Protocol (CDP) パケットを保持する時間を指定します。
<b>cdp run</b>	Cisco Discovery Protocol をイネーブルにします。
<b>cdp timer</b>	EPNM サーバーが Cisco Discovery Protocol の更新を送信する頻度を指定します。
<b>clock timezone</b>	表示のためのタイムゾーンを設定します。
<b>do</b>	コンフィギュレーションモードまたはいずれかのコンフィギュレーションサブモードで EXEC レベル コマンドを実行します。  (注) 開始時に、 <b>do</b> コマンドは EXEC コマンドより優先されます。
<b>end</b>	EXEC モードに戻ります。
<b>exit</b>	コンフィギュレーションモードを終了します。
<b>hostname</b>	システムのホスト名を設定します。
<b>icmp</b>	ICMP エコー要求を設定します。
<b>interface</b>	インターフェイスタイプを設定し、インターフェイスコンフィギュレーションモードを開始します。
<b>ip access-list</b>	アクセス制御リスト (ACL) の設定
<b>ip default-gateway</b>	IP アドレスを指定してデフォルトゲートウェイを定義または設定します。
<b>ip domain-name</b>	EPNM サーバーがホスト名を完成させるために使用するデフォルトのドメイン名を定義します。
<b>ip name-server</b>	DNS クエリー時に使用するドメインネームシステム (DNS) サーバを設定します。
<b>ip route</b>	IP ルートを設定します。
<b>kron occurrence</b>	1つ以上のコマンドスケジューラコマンドが、特定の日時に、または繰り返して実行されるようにスケジューリングします。

	説明
<b>kron policy-list</b>	コマンドスケジューラ ポリシーの名前を指定します。
<b>logging</b>	システムによるリモート システムへのログ転送をイネーブルにします。
<b>loglevel</b>	<b>logging</b> コマンドのログレベルを設定します。
<b>security</b>	<b>logging</b> コマンドのセキュリティ設定。
<b>logging sync-logs</b>	継続的なログ収集を設定してリポジトリと同期を取ります。
<b>no</b>	コマンドに関連付けられた機能をディセーブルにするか削除します。
<b>ntp</b>	システムの NTP サーバを使用してソフトウェアクロックを同期化します。
<b>password-policy</b>	パスワード ポリシーをイネーブルにして設定します。
リポジトリ	リポジトリ サブモードに入ります。
<b>service</b>	管理するサービスのタイプを指定します。
<b>snmp-server community</b>	コミュニティ アクセス スtring を設定して、簡易ネットワーク管理プロトコル (SNMP) にアクセスできるようにします。
<b>snmp-server contact</b>	システムで SNMP 接続のシステム管理情報ベース (MIB) 値を設定します。
<b>snmp-server host</b>	SNMP トラップをリモート システムに送信します。
<b>snmp-server location</b>	システムで、SNMP ロケーションの MIB 値を設定します。
<b>username</b>	システムにユーザを追加し、パスワードと権限レベルを指定します。

コンフィギュレーション モードとサブモードのコマンドの詳細については、[コマンドモードについて](#)を参照してください。



## 翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。